



Management Center へのログイン

以下のトピックでは、システムにログインする方法を示します。

- [ユーザアカウント \(1 ページ\)](#)
- [システム ユーザー インターフェイス \(3 ページ\)](#)
- [Secure Firewall Management Center Web インターフェイスへのログイン \(6 ページ\)](#)
- [SSO を使用した Management Center Web インターフェイスへのログイン \(7 ページ\)](#)
- [CAC クレデンシヤルを使用した Secure Firewall Management Center へのログイン \(8 ページ\)](#)
- [Management Center コマンドライン インターフェイスへのログイン \(9 ページ\)](#)
- [最後のログインの表示 \(10 ページ\)](#)
- [Management Center の Web インターフェイスからのログアウト \(11 ページ\)](#)
- [Management Center へのログイン履歴 \(11 ページ\)](#)

ユーザ アカウント

ユーザー名とパスワードを入力して、Management Center または管理対象デバイスの Web インターフェイスまたは CLI へのローカルアクセスを取得する必要があります。管理対象デバイスでは、Config レベルのアクセス権を持つ CLI ユーザーは、expert コマンドを使用して Linux シェルにアクセスできます。Management Center では、すべての CLI ユーザーが expert コマンドを使用できます。Threat Defense と Management Center は、外部 LDAP や RADIUS サーバーでユーザーログイン情報を保存する外部認証を使用するように設定できる場合があります。その場合、外部ユーザーに対し、CLI へのアクセスを禁止または許可することができます。Management Center は、認証および承認のために、セキュリティアサーションマークアップ言語 (SAML) 2.0 オープンスタンダードに準拠する任意の SSO プロバイダーを使用したシングルサインオン (SSO) をサポートするように設定できます。

Management Center CLI は、すべてのコマンドにアクセスできる単一の **admin** ユーザーを提供します。Management Center Web インターフェイスのユーザーがアクセスできる機能は、管理者がユーザーアカウントに付与する権限によって制御されます。管理対象デバイスでは、ユーザーがアクセスできる機能 (CLI と Web インターフェイス用の) は、管理者がユーザーアカウントに付与する権限によって制御されます。



(注) システムはユーザーアカウントに基づいてユーザーアクティビティを監査します。ユーザーが正しいアカウントでシステムにログインすることを確認してください。



注意 すべての Management Center CLI ユーザー、および管理対象デバイスで Config レベルの CLI アクセス権を持つユーザーは、Linux シェルの root 権限を取得できます。このため、セキュリティ上のリスクが生じる可能性があります。システムセキュリティ上の理由から、次の点を強くお勧めします。

- 外部認証を確立した場合は、CLI へのアクセス権があるユーザーのリストを適切に制限してください。
- 管理対象デバイスで CLI アクセス権限を付与する場合は、Config レベルの CLI アクセス権を付与された内部ユーザのリストを制限します。
- Linux シェルユーザーは確立しないでください。事前定義された **admin** ユーザーおよび CLI 内で **admin** ユーザーが作成したユーザーのみを使用します。



注意 Cisco TAC または Cisco Secure Firewall のユーザーマニュアルの明示的な手順による指示がない限り、Linux シェルを使用しないことを強くお勧めします。

アプライアンスが異なれば、サポートするユーザーアカウントのタイプは異なり、搭載される機能もさまざまです。

Secure Firewall Management Center について

Secure Firewall Management Center では、次のユーザ アカウント タイプをサポートします。

- Web インターフェイス アクセス用に事前定義された **admin** アカウント。このアカウントは管理者ロールを保有し、Web インターフェイスから管理できます。
- カスタム ユーザー アカウント。このアカウントは Web インターフェイスへのアクセスが可能で、**admin** ユーザーおよび管理者権限を持つユーザーが作成および管理できます。
- CLI アクセスのために事前定義された **admin** アカウント。このアカウントでログインするユーザーは、`expert` コマンドを使用して Linux シェルにアクセスできます。

CLI の **admin** アカウントと Web インターフェイスの **admin** アカウントのパスワードは初期設定時に同期されますが、それ以降、必要に応じて2つの **admin** アカウントに個別のパスワードを設定することができます。



注意 システム セキュリティ上の理由から、アプライアンスでは追加の Linux シェル ユーザーを確立しないことを強く推奨します。

Secure Firewall Threat Defense および Secure Firewall Threat Defense Virtual デバイス

Secure Firewall Threat Defense および Secure Firewall Threat Defense Virtual デバイスでは、次のユーザ アカウント タイプをサポートします。

- 事前定義された **admin** アカウント。このアカウントはデバイスにアクセスするすべての形態で使用できます。
- カスタム ユーザー アカウント。このアカウントは、**admin** ユーザーおよび Config アクセス権をもつユーザーが作成、管理できます。

Secure Firewall Threat Defense は、SSH ユーザの外部認証をサポートしています。

システム ユーザー インターフェイス

アプライアンスのタイプに応じて、Web ベースの GUI、補助的な CLI、または Linux シェルを使用してアプライアンスを操作できます。Secure Firewall Management Center 展開では、ほとんどの設定タスクを Management Center の GUI から実行します。CLI または Linux シェルを使用してアプライアンスに直接アクセスすることが必要なタスクは、ごく一部のタスクのみです。Cisco TAC またはユーザーマニュアルの明示的な手順による指示がない限り、Linux シェルを使用しないことを強くお勧めします。

ブラウザの要件については、『[Cisco Secure Firewall Release Notes](#)』を参照してください。



(注) すべてのアプライアンスでは、SSH を介した CLI へのログイン試行が 3 回連続して失敗すると、SSH 接続は終了します。

アプライアンス	Web ベースの GUI	補助的な CLI	Linux シェル
Secure Firewall Management Center	<ul style="list-style-type: none"> 事前定義された admin ユーザーとカスタム ユーザー アカウントでサポートされます。 アドミニストレーティブ タスク、管理タスク、分析タスクに使用することができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前定義された admin ユーザーとカスタム外部 ユーザー アカウントでサポートされます。 SSH 接続、シリアル接続、またはキーボードおよびモニター接続を使用してアクセス可能です。 Cisco TAC の指示に従って管理およびトラブルシューティングを行う場合にのみ、使用してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前定義された admin ユーザーでサポートされます。 Secure Firewall Management Center CLI から <code>expert</code> コマンドを使用してアクセスする必要があります。 SSH 接続、シリアル接続、またはキーボードおよびモニター接続を使用してアクセス可能です。 Cisco TAC または Management Center マニュアルの明示的な手順による指示に従って管理およびトラブルシューティングを行う場合にのみ、使用してください。
Secure Firewall Threat Defense Secure Firewall Threat Defense Virtual	—	<ul style="list-style-type: none"> 事前定義された admin ユーザーとカスタム ユーザー アカウントでサポートされます。 SSH、シリアル、またはキーボードとモニター接続を使用してアクセスできます。仮想デバイスでは、SSH または VM コンソール経由でアクセスできます。 Cisco TAC の指示に従って設定およびトラブルシューティングを行う場合にのみ、使用できます。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前定義された admin ユーザーとカスタム ユーザー アカウントでサポートされます。 Config アクセス権を持つ CLI ユーザーが <code>expert</code> コマンドを使用してアクセスできます。 Cisco TAC または Management Center マニュアルの明示的な手順による指示に従って管理およびトラブルシューティングを行う場合にのみ、使用してください。

関連トピック

[内部ユーザーの追加または編集](#)

Web インターフェイスの考慮事項

- 組織が認証に共通アクセスカード (CAC) を使用している場合は、LDAPで認証されている外部ユーザーはCACクレデンシャルを使用してアプライアンスの Web インターフェイスにアクセスすることができます。
- デフォルトのホーム ページの上部に表示されるメニューおよびメニュー オプションは、ユーザアカウントの権限に基づきます。ただし、デフォルトホームページのリンクには、ユーザアカウントの権限の範囲に対応するオプションが含まれています。アカウントに付与されている権限とは異なる権限が必要なリンクをクリックすると、システムから警告メッセージが表示され、そのアクティビティがログに記録されます。
- プロセスの中には長時間かかるものがあります。このため、Web ブラウザで、スクリプトが応答しなくなっていることを示すメッセージが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、スクリプトが完了するまでスクリプトの続行を許可してください。

関連トピック

[ホームページの指定](#)

セッションタイムアウト

セッションタイムアウトが適用されないように設定しない限り、デフォルトでは、非アクティブな状態が1時間続くと、システムが自動的にセッションからユーザーをログアウトします。



- (注) SSO ユーザーの場合、Management Center セッションがタイムアウトすると、表示は IdP インターフェイスに一時的にリダイレクトされ、次に Management Center ログインページにリダイレクトされます。SSO セッションが他の場所から終了していない限り、ログインページの [シングルサインオン (Single Sign-On)] リンクをクリックするだけで、ログイン資格情報を提供しなくても、誰でも Management Center にアクセスできます。Management Center のセキュリティを確保し、他の人が SSO アカウントを使用して Management Center にアクセスするのを防ぐために、Management Center ログインセッションを無人のままにせず、Management Center からログアウトするときに IdP で SSO フェデレーションからログアウトすることをお勧めします。

管理者ロールを割り当てられたユーザーは、以下の設定を使用して、アプライアンスのセッションタイムアウト間隔を変更できます。

[システム (System)] > [設定 (Configuration)] > [シェル タイムアウト (Shell Timeout)]

関連トピック

[セッションタイムアウトの設定](#)

[SAML シングルサインオンの設定](#)

Secure Firewall Management Center Web インターフェイスへのログイン



- (注) このタスクは、LDAP または RADIUS サーバーによって認証された内部ユーザーと外部ユーザーに適用されます。SSO ログインについては、[SSO を使用した Management Center Web インターフェイスへのログイン \(7 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザーは単一のアクティブなセッションに制限されます。すでにアクティブセッションがあるユーザーアカウントにログインしようとするか、もう一方のセッションを終了するか、または別のユーザーとしてログインするように求められます。

複数の Management Center が同じ IP アドレスを共有する NAT 環境の場合

- 各 Management Center が一度にサポートできるログインセッションは1つだけです。
- 異なる Management Center にアクセスするには、ログインごとに別のブラウザ (Firefox や Chrome など) を使用するか、ブラウザをシークレットモードまたはプライベートモードに設定します。

始める前に

- Web インターフェイスにアクセスできない場合は、システム管理者に連絡してアカウントの特権を変更してもらうか、管理者アクセス権を持つユーザーとしてログインし、アカウントの特権を変更します。
- 「[内部ユーザーの追加または編集](#)」の説明に従って、ユーザアカウントを作成します。

手順

ステップ 1 ブラウザで https://ipaddress_or_hostname/ に移動します。ここで、*ipaddress* または *hostname* は使用している Management Center に対応します。

ステップ 2 [ユーザー名 (Username)]および[パスワード (Password)]フィールドに、ユーザー名とパスワードを入力します。次の注意事項に注意を払ってください。

- ユーザ名は大文字/小文字を区別しません。
- マルチドメイン導入環境では、ユーザーアカウントが作成されたドメインをユーザー名の前に付加します。先祖ドメインを前に付加する必要はありません。たとえばユーザアカウントを SubdomainB で作成し、そのドメインの先祖ドメインが DomainA である場合、次の形式でユーザ名を入力します。

SubdomainB\username

- 組織でログイン時に SecurID® トークンが使用されている場合、ログインするには SecurID PIN にトークンを付加してパスワードとして使用します。たとえば PIN が 1111 で、SecurID トークンが 222222 の場合は、1111222222 と入力します。システムにログインする前に、SecurID PIN を生成しておく必要があります。

ステップ 3 [ログイン (Login)] をクリックします。

関連トピック

[セッションタイムアウト](#) (5 ページ)

SSO を使用した Management Center Web インターフェイスへのログイン

Management Center は、セキュリティアサーションマークアップ言語 (SAML) 2.0 オープンスタンダードに準拠する SSO プロバイダーで導入された、シングルサインオン (SSO) フェデレーションに参加するように設定できます。アイデンティティプロバイダー (IdP) で SSO ユーザーアカウントを確立し、アカウント名に電子メールアドレスを使用する必要があります。ユーザー名が電子メールアドレスでない場合、または SSO ログインに失敗する場合は、システム管理者にお問い合わせください。



(注) Management Center は、SSO アカウントの CAC クレデンシャルを使用したログインをサポートしていません。

ユーザーは単一のアクティブなセッションに制限されます。すでにアクティブセッションがあるユーザーアカウントにログインしようとするか、もう一方のセッションを終了するか、または別のユーザーとしてログインするように求められます。

複数の Management Center が同じ IP アドレスを共有する NAT 環境の場合

- 各 Management Center が一度にサポートできるログインセッションは 1 つだけです。
- 異なる Management Center にアクセスするには、ログインごとに別のブラウザ (Firefox や Chrome など) を使用するか、ブラウザをシークレットモードまたはプライベートモードに設定します。

始める前に

- Management Center を SSO アクセス用に設定します。[SAML シングルサインオンの設定](#)を参照してください。
- Web インターフェイスにアクセスできない場合は、システム管理者に問い合わせ、SSO IdP でアカウントを設定してください。

手順

ステップ 1 ブラウザで [`https://ipaddress_or_hostname/`](https://ipaddress_or_hostname/) に移動します。ここで、`ipaddress` または `hostname` は使用している Management Center に対応します。

(注) SSO ユーザーは、常に SSO アクセス用に特別に設定されたログイン URL を使用して、Management Center にアクセスする必要があります。この情報については、管理者にお問い合わせください。

ステップ 2 [シングルサインオン (Single Sign-On)] リンクをクリックします。

ステップ 3 システムは、次の 2 つの方法のいずれかで応答します。

- SSO フェデレーションにすでにログインしている場合は、Management Center のデフォルトのホームページが表示されます。
- SSO フェデレーションにまだログインしていない場合は、Management Center によりブラウザが IdP のログインページにリダイレクトされます。IdP でログインプロセスを完了すると、Management Center のデフォルトのホームページが表示されます。

関連トピック

[セッションタイムアウト \(5 ページ\)](#)

[SAML シングルサインオンの設定](#)

CAC クレデンシャルを使用した Secure Firewall Management Center へのログイン

ユーザーは単一のアクティブなセッションに制限されます。すでにアクティブセッションがあるユーザーアカウントにログインしようとするか、もう一方のセッションを終了するか、または別のユーザーとしてログインするように求められます。

複数の Management Center が同じ IP アドレスを共有する NAT 環境の場合

- 各 Management Center が一度にサポートできるログインセッションは 1 つだけです。
- 異なる Management Center にアクセスするには、ログインごとに別のブラウザ (Firefox や Chrome など) を使用するか、ブラウザをシークレットモードまたはプライベートモードに設定します。



注意 ブラウズセッションがアクティブな間は、CAC を削除しないでください。セッション中に CAC を削除または交換すると、Web ブラウザでセッションが終了し、システムにより Web インターフェイスから強制的にログアウトされます。

始める前に

- Web インターフェイスにアクセスできない場合は、システム管理者に連絡してアカウントの特権を変更してもらうか、管理者アクセス権を持つユーザーとしてログインし、アカウントの特権を変更します。
- 「[内部ユーザーの追加または編集](#)」の説明に従ってユーザーアカウントを作成します。
- 「[LDAP を使用した共通アクセス カード認証の設定](#)」の説明に従って、CAC の認証と認可を設定します。

手順

- ステップ 1** 組織の指示に従って CAC を挿入します。
- ステップ 2** ブラウザで https://ipaddress_or_hostname/ に移動します。ここで、*ipaddress* または *hostname* は使用している Management Center に対応します。
- ステップ 3** プロンプトが表示されたら、ステップ 1 で挿入した CAC に関連付けられた PIN を入力します。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら、ドロップダウン リストから該当する証明書を選択します。
- ステップ 5** [続行 (Continue)] をクリックします。

関連トピック

- [LDAP を使用した共通アクセス カード認証の設定](#)
- [セッションタイムアウト \(5 ページ\)](#)
- [Management Center の SSO ガイドライン](#)

Management Center コマンドラインインターフェイスへのログイン

admin CLI ユーザーと特定のカスタム外部ユーザーは、Management Center CLI にログインできません。



注意 Cisco TAC または Management Center マニュアルの明示的な手順による指示がない限り、Linux シェルを使用しないことを強くお勧めします。



(注) すべてのアプライアンスでは、SSH を介した CLI へのログイン試行が 3 回連続して失敗すると、SSH 接続は終了します。

始める前に

admin ユーザーとして初期設定プロセスを完了します。「[最初のログイン](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 **admin** ユーザー名とパスワードを使用して、SSH またはコンソールポート経由で Management Center に接続します。

組織でログイン時に SecurID® トークンが使用されている場合、ログインするには SecurID PIN にトークンを付加してパスワードとして使用します。たとえば PIN が 1111 で、SecurID トークンが 222222 の場合は、1111222222 と入力します。ログインする前に、SecurID PIN を生成しておく必要があります。

ステップ 2 利用可能な CLI コマンドのいずれかを使用します。

最後のログインの表示

権限のないユーザがクレデンシャルを使用して Secure Firewall Management Center にサインインしていることが疑われる場合は、クレデンシャルが最後にログインに使用された日付、時刻、および IP アドレスを確認できます。

始める前に

この機能は、クラシックテーマを使用している場合は使用できません。ユーザー設定で UI テーマを選択できます。

手順

ステップ 1 Secure Firewall Management Center にサインインします。

ステップ 2 ブラウザ ウィンドウの右上隅で、サインインに使用したユーザー ID を探します。

ステップ 3 ユーザー名をクリックします。

ステップ 4 前回のログインに関する情報が、表示されるメニューの下部に表示されます。

Management Center の Web インターフェイスからのログアウト

Management Center の Web インターフェイスをアクティブに使用しなくなった場合、シスコでは、少しの間 Web ブラウザから離れるだけであっても、ログアウトすることを推奨しています。ログアウトすることで Web セッションを終了し、別のユーザーが自分の資格情報を使用してインターフェイスを使用できないようにします。



- (注) Management Center で SSO セッションからログアウトしている場合は、ログアウトするときにブラウザで組織の SSO IdP にリダイレクトされます。Management Center のセキュリティを確保し、他の人が SSO アカウントを使用して Management Center にアクセスするのを防ぐために、IdP で SSO フェデレーションからログアウトすることをお勧めします。

手順

- ステップ 1** ユーザー名の下にあるドロップダウンリストから、[ログアウト (Logout)] を選択します。
- ステップ 2** Management Center で SSO セッションからログアウトしている場合は、組織の SSO IdP にリダイレクトされます。Management Center のセキュリティを確保するために、IdP でログアウトします。

関連トピック

[セッションタイムアウト](#) (5 ページ)

Management Center へのログイン履歴

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
SAML 2.0 準拠の SSO プロバイダーを使用したシングルサインオン (SSO) のサポートが追加されました。	6.7	任意 (Any)	サードパーティの SAML 2.0 準拠アイデンティティプロバイダー (IdP) で設定されたユーザーがログインページの新しい [シングルサインオン (Single Sign-On)] リンクを使用して Management Center にログインする機能が追加されました。 新規/変更された画面： ログイン画面

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
Secure Firewall Management Center に最後にサインインした時刻に関する情報を表示します。	6.5	任意 (Any)	最後にログインした日付、時刻、および IP アドレスを表示します。 新規/変更されたメニュー： ウィンドウの右上の、ログインに使用したユーザー名を表示するメニュー。 サポートされているプラットフォーム： Management Center
Management Center を対象とした自動 CLI アクセス	6.5	任意 (Any)	SSH を使用して Management Center にログインすると、CLI に自動的にアクセスします。CLI expert コマンドを使用して Linux シェルにアクセスすることもできますが、このコマンドを使用しないことを強く推奨します。 (注) Management Center の CLI アクセスを有効または無効にするバージョン 6.3 の機能は廃止されます。このオプションが廃止された結果、仮想 Management Center は、[システム (System)] > [設定 (Configuration)] > [コンソールの設定 (Console Configuration)] ページを表示しなくなりました。このページは、物理 Management Center では引き続き表示されます。
SSH ログイン失敗の制限数	6.3	任意 (Any)	ユーザーが SSH 経由でデバイスにアクセスし、ログイン試行を 3 回続けて失敗すると、デバイスは SSH セッションを終了します。
Management Center の CLI アクセスを有効化および無効化する機能	6.3	任意 (Any)	新しい/変更された画面： Management Center の Web インターフェイスで管理者が使用可能な新しいチェックボックス：システム (⚙) > [構成 (Configuration)] の [CLI アクセスの有効化 (Enable CLI Access)] > [コンソール設定 (Console Configuration)] ページ。 <ul style="list-style-type: none"> オン：SSH を使用して Management Center にログインすると CLI にアクセスします。 オフ：SSH を使用して Management Center にログインすると Linux シェルにアクセスします。これは、バージョン 6.3 の新規インストールと、以前のリリースからバージョン 6.3 にアップグレードした場合のデフォルトの状態です。 サポートされているプラットフォーム： Management Center

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。